

神聖なる師に魅了される瞬間

60年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミルナードゥ州出身のラニ スップラマニアム女史（訳注：2012年12月1日逝去）が、バガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも1950年のことでした。現在85歳で（2008年4月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれていました。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってください。これは彼女の素晴らしい回想録の第6部です。第1部～第5部を読まれる方は、下記をクリックして下さい。

[第1部](#) [第2部](#) [第3部](#) [第4部](#) [第5部](#)

ラニ マー女史へのインタビューより

第6部

原初のお方、神ご自身からプラナヴァ（原初音であるオーム）を学ぶ



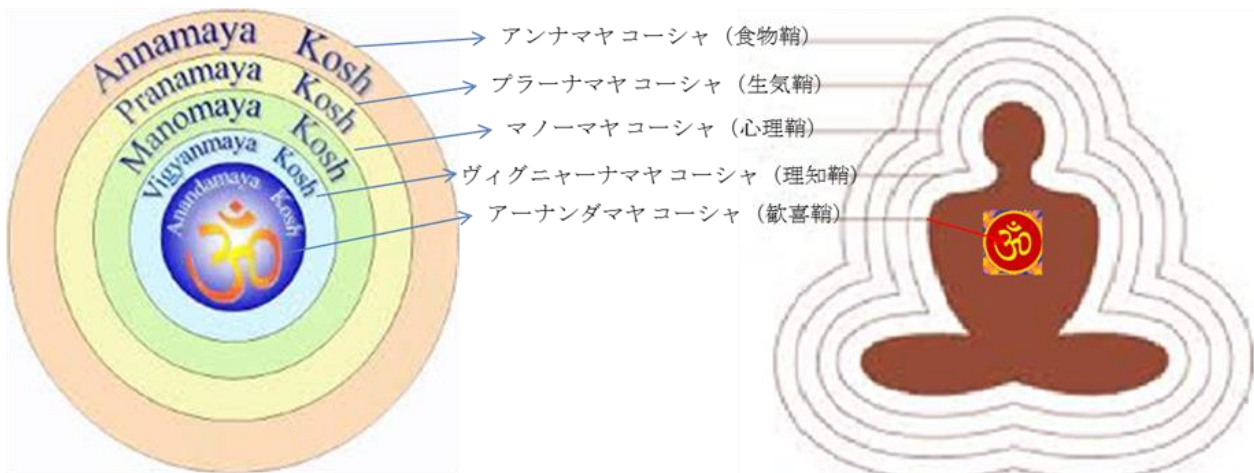
スワミは（プッタパルティ村の古いマンディールから移転された）プラシャーンティ ニラヤムに住み始められてから数年後、アシュラムにおいて「オーム」吟唱の実践を導入されました。帰依者全員がバジャン ホールに集い、スワミは正しい唱え方を学ぶべきであると告げられました。こうして毎朝ブラフマ ムフルタ（神聖吉兆）の時間である午前3時30分に、これらの「オーム カーラ セッション」が始まりました。（後にスワミはこれらのセッションの時間を変更なさったようです）

その実践が始まった数日後に、スワミは私たちの部屋に来られました。妹はコテージ（小家屋）を割り当てられていましたが、私には部屋を割り当てることをスワミは拒否なさいました！ いずれにせよスワミは部屋に入って来られて、私たち姉妹に床に座るようにおっしゃいました。スワミも同様に、私たち二人と向かい合わせに、床にしゃがん

でお座りになりました。そしてスワミはお尋ねになりました。

「あなた方はオーム カーラ吟唱の目的を知っていますか？ 私がオーム カーラの意味と適切な唱え方を教えましょう。それは正しく行わなければなりません！」

スワミはオーム カーラのパワーについて説き始められ、それはアンタフカラナ、すなわちマナス、ブッディ、チッタ、アハンカーラ（心、知性、認識、自我）を浄化するのだとおっしゃいました。更に、それ（オームカーラ）はジーヴァートマ（個我）が覆われているアンナマヤ、プラーナマヤ、マノーマヤ、ヴィグニャーナマヤ、アーナンダマヤ（食物、生气、心、理知、歓喜）のすべてのコーシャ、すなわち鞘（層、覆い）を浄化するとおっしゃいました。「このような浄化を通じて、オーム カーラは人を自らの真我に近づけるのです」とスワミはおっしゃいました。



参考画像：http://www.thekundaliniyoga.org/vedanta/pancha_kosha_five_layers_of_human_existence.aspx

そしてその後、スワミは私たちのためにそれ（オーム カーラ）を唱えてくださり、スワミの後に続いて、私たちが同じように繰り返し唱えたものでした。当時はスワミご自身のお椅子はありませんでした！ スワミは敷物も敷かれていない床の上にそのまま座って唱えておられました。私たちがスワミの後に続いて唱え、真剣に学ぼうと必死でした。数日後、再度スワミは私たちを訪ねて来られ、おっしゃいました。

「あなた方がどれだけ上達したか、みるために来ました！ オーム カーラを唱えてごらんください！」

スワミは私たちが唱えるのを聞かれ、満足できるものだ（上出来だ）とおっしゃいました。そして毎日唱えるように、とご教示くださいました。

マントロパデーシャ

数日後、私たちは偶然スワミの御前に居合わせた際、スワミにお願いしました。

「スワミ、私たちにはマントラがありません。霊性の道においてマントラを唱えるこ

とは非常に重要なことだと聞きました。どうか私たちにウパデーシャ（霊的な教え）を与え、マントラを手ほどきしてください」 スワミはおっしゃいました。

「ダメです！ マントラは与えません」

私たちはスワミがおっしゃったことの真の意図を理解していませんでしたが、後になって考えてみると、スワミは純粋なアドワイタ（唯一無二、不二一元）であり、それこそがオーム カーラの意味であることを、そのとき明白にしてくださったのです。オーム カーラはまさしくパラブラフマン（普遍なる絶対者）を意味し、『バガヴァッド ギター』では名前と姿を超越した唯一のお方として記述されています。当時、私たちはこの神聖な経典を読んでおらず、それが何を意味するのかという概念も持ち合わせていませんでした。まだそのとき、私たちには内なる深みの意味を受け取る用意ができていないことを、スワミはご存知だったのです。

当時、私たちは落胆してスワミに尋ねました。

「スワミ、ではどうすれば私たちのマントラを頂けるのでしょうか？」

スワミはマントラを授かるよう神に祈るように命じられ、私たちが必ずそれ（マントラ）を受け取ることができると保証してくださいました。スワミはおっしゃいました。

「しかし、それは適切な（ふさわしい）時にもたらされるでしょう。それまでは祈り続けなさい」

しかし、私たちはしつこく自分たちの要望を主張しました。

「マントラを頂けるまでは、何を唱えるべきでしょうか？」

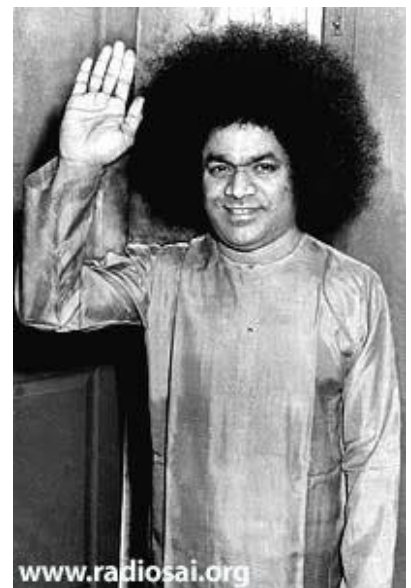
スワミはおっしゃいました。

「各人にはそれぞれのイシュタデーヴァター、自分の好む特定の神の御姿があります。私が御姿を選択して指定することはありませんが、あなた方は自分で（祈る神の）御姿を選択しなさい。ラーマを好んでいれば、『オーム シュリ ラーマ』と唱えなさい。クリシュナを好んでいれば、『オーム シュリ クリシュナ』と唱えなさい。あなたには二人のグル（導師）がいることを覚えておきなさい。一人はあなたのイシュタデーヴァター（神）であり、もう一人はあなたにウパデーシャ（霊的な教え）を授けるグルです」

そうして、スワミは一層くつろいだご様子で話を続けられました。

「あなたが私の名前を好んでいるのであれば、その名前（サティヤ サイ ババ）を唱えても構いません」

次に、スワミは私がどの御姿を好んでいるかお尋ねになりました。私はラーマよりもクリシュナのほうがより馴染みやすいため、クリシュナを好んでいることを認めました。



クリシュナが帰依者たちの間を歩き回ったこと、クリシュナの愛、等々が私をすっかり魅了していたのです。ラーマはすべてにおいて厳格過ぎ、厳し過ぎました！ 選択はあなた次第であり、どの神の御姿を選んでも相違ないのだからそれでよろしい、とスワミはおっしゃいました。このご指示は、スワミから私たち四人に授けられました。

この出来事の数か月後、各自が自分のプラーラブタ（過去の功德）や好みに応じて、自分の夢の中でマントラを授けられました。

私はプッタパルティではマントロパデーシャ（マントラ・ウパデーシャ）を受け取りませんでしたでしたが、その代わりに当時住んでいたナーグプルで授けられました。私がプッタパルティに到着すると、スワミはすぐさま私たちの部屋に来られました。私がマントラを受け取ったことをお伝えすると、スワミはおっしゃいました。

「それはとても善いことです。あなたがどんなマントラを受け取ったか話さない」

私がスワミに（どのマントラを受け取ったかを）打ち明けると、誰彼かまわず、あらゆる人にこのことを口外してはならない、と警告されました。しかしながら、スワミは私のグルですから、スワミにお話しすることは差支えないとおっしゃいました。私がスワミを訪問した初期の頃、スワミはそのことをご指導くださいました。スワミはパーダプージャー（御足への礼拝）をするようにおっしゃり、なぜそのプージャーを行うようにおっしゃったのか、理由を説いてくださいました。当時は、スワミが私たちのグルであることさえ自覚していなかったのです！

それでもまだ私を悩ませているものがありました。私はうっかり話してしまいました。

「スワミ、私はラーマのマントラを授けられましたが、私のイシュタデーヴァター（選択した神）はクリシュナです！ スワミはこれ（ラーマのマントラ）がふさわしいとお考えですか？」

スワミはおっしゃいました。

「あなたの質問は、ラーマとクリシュナが同じ神であるという事実を理解していないことを示しています。なぜ違いを見るのですか？ すべての姿は一つです。何らかの理由により、あなたはラーマのマントラを授かったのです。畏敬の念を持って受け取りなさい。あなたが姿の違いにとらわれ続けるなら、そのマントラの効果は減少するでしょう。ラーマをあなたのマントラにし、クリシュナをあなたのイシュタデーヴァターとしなさい。しかし、その違いを意識することなく唱えなさい。そうすれば、あなたは確実にその神の意識（神性意識）に到達するでしょう。そのような善いマントラを授かったあなたは幸運なのです」 その日以来、私は授かったそのマントラを唱えています。

コダイカナルへの神のご招待

当時、スワミは私たちに夏の間、スワミを訪問するようにおっしゃいました。群衆も少なく、その場所は静かになるため、私たちと一緒に多くの時間を過ごすことができる

からだとおっしゃいました。そしてこの（前述のスワミのご指示）後の夏に、ブラフマチャーリニー（禁欲主義の女性）の妹、9歳の娘と4歳の姪と共に、私はプッタパーティに到着しました。私たちが到着した際、スワミはプッタパーティにおられました。しかしながら、数日後に思いがけず、スワミは私たちに報せることなくお車でプッタパーティを発たれました。

私たちはカストゥーリ小父様のところに行き、スワミの行き先とお戻りになる予定日について尋ねました。小父様は、スワミがコダイカナル（スワミがかつて盛夏を過ごしていた南インドの高原避暑地）に行かれたことを教えて下さいました。私たちはがっかりして、カストゥーリ小父様に尋ねました。

「何があったのですか？ 私たちはスワミと共に時を過ごすという唯一の目的のために、はるばるプッタパーティまで来たのです。でもスワミは私たちが発つことを許可してくださることもなく、いつお戻りになるかを報せてくださることもなく、私たちを置き去りにして発たれてしまわれました。私たちはどうすればよいのでしょうか？」

カストゥーリ小父様は、スワミにお手紙を書くようにおっしゃいました。

「スワミの許可なくしてあなた方がプッタパーティを発つことはできないことを、スワミにお話しなさい。スワミはいつあなた方が（プッタパーティを）発つべきか、日程を示してください。それはあなた方が従わなければならない礼儀です」と、小父様は言われました。

そうして、私たちはカストゥーリ小父様が教えてくださった住所宛に、スワミへのお手紙を書きました。そのお手紙の内容は次のようなものでした。

「スワミ、私たちはあなたのためにここに来ました。しかし、あなたが私たちをここに置き去りされたので途方に暮れています。私たちはどうすればよいのでしょうか？ ここで、あなたの存在なくしてプッタパーティに留まる理由（目的）は何もありません。帰宅いたしましょうか？ スワミは私たちにどのようにしてほしいですか？」

その後、私たちはスワミから電報を受け取りました。そこにはシンプルにこう書かれていました。「コダイカナルに来て、私と共に滞在しなさい」

私たちは幸せでした！ 私たちはチェンナイに行き、私たちの大切な友人でコダイカナルにいるご婦人に、宿泊施設のことで連絡をとりました。彼女はシュリ ラーマクリシュナの帰依者であり、コダイカナルに2軒のバンガロー（小別荘）を所有していました。そして、カマラ サーラティ（私の姉）の娘と、更に2人の友人も加わりました。私たちは5人の大人と（2人の）子供たちのチームで、その友人のバンガロー（小別荘）に滞



在し、数か月間どうにかうまくやってきました。唯一の問題は、その場所がスワミのお住まいから非常に遠かったことでした。しかし、当時はそれが唯一の使用できるバンガロー（小別荘）だったのでした。

コダイカナルに到着した初日に、私たち5人と2人の子供たちはスワミのお住まいのある丘の頂上まで、長い道のりを歩いて上がって行きました。それはヴェンカタムニ氏の美しいバンガロー（小別荘）でした。私たちがスシーランマ（ヴェンカタムニ夫人）の家に近づくと、驚いたことにスワミが乗られた車が走り去るのを見えました！ スワミは数人の方々とご一緒でした。ラージャ レッディー氏が運転し、スワミが彼の隣にお座りになり、数人の紳士らが車の後部座席にいました。

スワミは私たちが来ているのをご覧になり、車を止めて声をかけて下さりました。

「ラニ マー、ここに来なさい。心配してはなりません。私はコダイカナルを離れません。他の場所に出かけるのです。ここにいなさい。数日後には戻ります。私のとても愛する帰依者が重病なのです。彼は私のダルシャンを望んでいます」

それでスワミがお戻りになるまで、私たちにコダイカナルに滞在し、毎日スシーランマの家へ昼食に行くようにおっしゃいました。そしてスワミが戻られた後、私たちは外で朝食と夕食を摂りましたが、一日の大半をスシーランマの家でスワミと共に過ごし、昼食とお茶をごちそうになりました。

モークシャ（解脱）に関するレッスン



そのうちに、スワミは私たちを部屋に呼ばれておっしゃいました。

「霊性の道には3つの段階があります。あなたは2つの段階を渡りました。3つ目（の段階）を渡るのは非常に困難です。最初の2つの段階までは歩いて渡るように簡単です。しかしながら3番目の段階は跳躍が求められ、ごく少数の人しか渡ることができないために、人々がためらう段階です」

私は『バガヴァッド ギター』を読んだ後、スワミが意図されている3番目の段階は、モークシャ（解脱）を意味しているのだと理解しました。モークシャ（解脱）に到達するのは非常に難しく、人は完全にエゴ（自我）を取り除き、どんなときも神聖な覚醒意識の中で、アルタ（富への願望）とカーマ（欲望）等のような心を曇らせるに違いない世俗的な欲望の痕跡がまったく残らない状態で生きなければなりません。これは、心（マインド）から

解脱に至る最後の段階です。心はあなたがこの肉体であると考えさせます。それ（心）はあなたが誰かの息子であり、他の誰かの兄弟である等々・・・と語ります」

スワミは続けておっしゃいました。

「最後の段階に到達するのは非常に困難です。しかし、あなたはそこに到達しなければなりません。あなたが進む道に現れる試練は厳しいものになるでしょう。内側に向い、答えを求めなさい。スワミがどんな状況でも、どのように対処すればよいかをあなたに示します。あなたのエゴ（自我）を慎みなさい」

このウパニシャッド（指示）はすべて、私たちがどのようにして完全に「私」「私のもの」という感情を根絶しなければならないかを示していました。スワミがプッタパルティで私に住居を与えてくださらなかったのは、この理由からでした。スワミはおっしゃいました。

「あなたは『貴方（神様）』『貴方（神様）のもの』のために取り組んでいます。なぜ私にあなたに部屋を与えなくてはならないのですか？ そうすれば（部屋を与えれば）、私はあなたを『私』『私のもの』のレベルに落としてしまうことになります。あなた方は皆、最後の跳躍を恐れて尻ごみをしています。そのようにはなりません。淀んだ水は悪臭を放ちます。澄んだ川のように流れなければなりません。試練と苦難に立ち向かいなさい。それらは合格しなければならないテストなのです。ババはあなたに試験を受けさせ、あなたは自分の成績に基づいて合格するか不合格になるでしょう。恐れてはなりません。私はあなたと共にいます。一度に一歩進みなさい。更に更に放棄しなさい。たとえ誰かがあなたを傷つけたとしても、平静を保ちなさい。反応してはなりません。誰かが横柄な態度をとったとしても、落ち着いて平静を保ちなさい。あなたは限定されたエゴ（自我）のせいで反応するのです。飛躍しなさい。そうすれば私はあなたを救います。立ち止まってはなりません！」

夫のキャリア（経歴）－ 神による取り計らい



この訪問の前、夫についてスワミとお話していた際に、初めに私はスワミにお尋ねしました。

「スワミ、私の夫が困難に遭遇しています。夫に値する昇格が見過ごされているため、夫は非常に落胆しているのです」

私の夫は保健局の局長の役職に昇格するはずでしたが、州首相は政治的な理由から夫を昇格させたくなかったのです。州首相は自分の甥を、私の夫よりも専門的には後輩であるにもかかわらず、その役職に任命したのです。

それから、私の夫は辞職の決断をするよう、ぎりぎりの状況に追い詰めたその彼から、(仕事の) 指示を仰がねばなりませんでした。これはすべて、私がデリーで妹の出産の手伝いをしていた際に起こりました。夫は一人でひどく動揺し、スワミに会うためにプッタパーティに行きたいという強い衝動に駆り立てられました。夫は、自分に安心を与え、導くことのできる者はスワミ以外に誰もいない、と思ったのです。

夫はプッタパーティに行くことを私に報せませんでした。夫はインドールからひそかにアシュラムに到着し、カストゥーリ小父様のところに行きました。夫は自分が私(ラニマー)の夫であることを自己紹介し、ババに会う機会を小父様に求めました。

カストゥーリ氏は言いました。

「ババはここにはいらっしゃいません！ ババに会うことはできません。あなたは帰らなければならないでしょう」

夫は非常にがっかりしてインドールに戻る決意をしました。間もなくババが車でお着きになりました！ ババはお部屋に直行され、カストゥーリ氏を呼んでおっしゃいました。

「ラニマーの夫、スップラマニウムがここに来ていますね？ 彼はいませんか？ すぐに彼を上階に来させなさい！」

夫はスワミのところに行き、心の内をさらけ出しました。夫はまたこの問題と同様に、プッタパーティへの訪問も私(ラニマー)に秘密にしていることをスワミに伝えました。スワミは夫におっしゃいました。

「ラニマーについては心配いりません！ 彼女は私のものです。私が彼女の面倒をみます」

夫は職場でこのような体験をしたので辞職したい、とスワミに話しました。スワミはおっしゃいました。

「ダメです。そのようなことはできません。(職場に) 戻って留まりなさい。私があなたを救います。それには時間がかかりますが、私にすべてを委ねなさい」

その後、夫はカストゥーリ小父様としばらく過ごし、とても元気を取り戻して帰ってきました。

そして、これはその後しばらくしてから起こったことですが、ある日、コダイカナルでスワミが私一人だけをお部屋に呼ばれ、この夫の問題についてお話しになりました。スワミはおっしゃいました。

「私はスップラマニウムに手紙を書きました」

スワミはラージャ レッディー氏にそれ(手紙)を書き取らせました。

それは英語の見事な肉筆(手書き)でした。スワミは私にその手紙を手渡され、読むようにおっしゃいました。その手紙には、人がどのように絶え間なくダルマ(正義)を遵守すべきか、そしてその他のことはスワミに委ねるべきかについて記されていました。その手紙は3-4ページあり、多くの靈的助言が記されていました。よく人は、部分的にダルマに従事し、部分的にアダルマ(不正)にふけています。

その手紙の中でスワミはおっしゃっていました。

「すべては適切な時に起こるでしょう。ダルマを遵守し、その他のことはすべて私に委ねなさい」

私が手紙を読んだ後、スワミはお尋ねになりました。

「ラニ マー、この手紙で大丈夫ですか？」

私は言いました。

「スワミ、なぜそのような質問をされるのですか？ 私のような者がスワミによって書かれた手紙にコメントを述べられるのでしょうか？」

スワミはおっしゃいました。

「そうではありません。私があなたの夫に何を語ったかを、あなたは知っていなければなりません。私が正しいアドバイスを提供したことで、あなたは幸せを感じなければなりません」

私は言いました。

「スワミ、あなたが手紙を書いてくださったのなら、そうであるに違いありません。私のような者が、それについて何か感想を述べられるのでしょうか？」

そして、スワミはその手紙を郵送されました。数年後、夫は自分に対して不正を働いた政府の保険省次官を訴えました。インド高等行政官のヴァラダン氏はマディヤ プラデーシュ州政府の次官であり、私たちの親愛なる友人でした。氏はこのケースを取り上げ、政府の正義のために戦ってくださいました。ヴァラダン氏の主導力は、州首相と保険（厚生）大臣に、保健局の副局長の役職を設けるよう促しました。それは州の歴史上前例のないことであり、悪を正すために、そして私の夫をこの役職に就かせるためになされたことでした。ババの奇跡に注目してください！

この出来事の数か月後、州レベルの保健局の会議がインドールで開催され、州首相の甥の（夫の代わりに昇格した）局長が議長を務めました。マディヤ プラデーシュ州の様々な地域を代表する医師と局長たちが出席していました。会議が始まる際、数行の開会宣言を述べた後、その議長はステージ上で倒れました。彼の隣に座っていた私の夫は、彼が倒れるのを抱えました。彼はすぐ病院に運ばれましたが、（その後は）生存しませんでした。その後、夫が（代わって）局長に昇格し、一時的に与えられた副局長の役職は廃止されました。この出来事は、スワミがおっしゃったことを立証しています。

「ダルマ（正義）を果たすなら、結果は適切なときに訪れます。それ（結果）は私に委ねなさい」



第7部へ続く . . .

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01SEP08/14-h2h_special.htm